

会 議 議 事 録

1 会議名	第1回長岡市文化財保存活用地域計画策定協議会
2 開催日時	令和6年3月28日(木) 13:30～
3 開催場所	さいわいプラザ6階 大会議室
4 出席者名	協議会委員 平山委員長、飯島副委員長、茂野委員(加藤調主任査員代理)、 田中委員、新野委員、松井委員、鷺津委員、目黒委員(早川課長 補佐代理)、関委員、高野委員、平澤委員 委員以外の出席者 竹内教育部長 (事務局=科学博物館) 小熊館長、神保館長補佐、鳥居係長、丸山主査
5 欠席者名	坂井委員、佐藤委員、小林委員、桜井委員
6 議題	(1) 正副委員長の選出 (2) 文化財保存活用地域計画の概要について (3) 長岡市文化財保存活用地域計画のスケジュールについて (4) 長岡市文化財保護行政の現状について (5) 令和5年度調査の概要について
7 協議結果の概要	(1) 正副委員長の選出 委員長 平山委員、副委員長 飯島委員 (2) 文化財保存活用地域計画の概要について 事務局より報告(資料1～3) (3) 長岡市文化財保存活用地域計画のスケジュールについて 事務局より報告(資料4) (4) 長岡市文化財保護行政の現状について 事務局より報告(資料5～7) (5) 令和5年度調査の概要について 事務局より報告(資料8)

8 協議の内容	
	<p>(1) 正副委員長の選出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員長に平山委員、副委員長に飯島委員が選出された。 <p>(2) 文化財保存活用地域計画の概要について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局より計画の概要について説明（資料1～3）
委員 事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・県内の作成事例、作成状況はどうなっているのか。 ・新発田市と糸魚川市が令和5年7月に認定、十日町市、村上市、胎内市が作成に着手している。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・地域計画素案第1章長岡市の概要（資料3）について、雪に関する内容がもっとあってよい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・合併前の自治体が積み重ねた歴史伝統はそれぞれに魅力がある。方向性として、各地域の歴史を踏まえつつそれをつなぐストーリーが必要と感じる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・各地域ではそれぞれ良いものがあるが、つなぎ切れていないという課題がある。この計画で周遊的なものができればいいが、合併して20年が経過し、地域にこだわる必要はないかもしれない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・震災の経験をへて山古志だけではやっていけない現状がある。間口を広げ、お互いの地域を協力する形をとれないかと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・馬高三十稲場遺跡保存会は、縄文文化普及のため現在まで続けてきたが、高齢化が進み、子供たちにどのようにつなげるかが課題。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・他の保存団体も高齢化が進んで、同じような問題に直面している。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・河合継之助友の会も会員の高齢化が進み、次代の担い手が必要。インバウンドを視野に入れた、外国人の視点や感覚は地元の人への気づきと誇りを持つことにつながる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・計画をつくって終わりではなく、保存・活用を進めていくアクションプランの部分が重要である。

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・都市マスタープランの中に、地域資源を磨き上げて広域連携を促進し、新たな交流の機会・場づくりに取り組むことが示されている。長生橋や川口の「やな場」などもこのような地域資源と考えられ、地域計画の歴史的背景で書かれることと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・長岡で地域計画を作成するのは、地域の構成要素がそれぞれ異なり中々難しいと感じた。これらの要素をしっかりと把握していただきたい。そのうえで、長岡市としてどのような特徴があるのか簡潔に示す必要もある。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的背景のとらえ方として合併前の地域が意識されているように感じる。今回の計画はその枠組みを踏襲するのか、枠組みを外れたところで文化的つながりを組めないのかを考えていくと、文化財について別の見方ができるのではないか。 <p>(3) 長岡市文化財保存活用地域計画作成のスケジュールについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局より説明(資料4) 令和5～7年度まで地域計画作成作業、令和8年度国の認定を予定 <p>(4) 長岡市の文化財保護行政の現状について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局より説明(資料5～7)
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・無形の民俗文化財の指定基準はどういったものか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・民俗文化財では歴史的学術価値が高いというよりも、人々の生活文化などの典型的なものというのが基準になる。 ・合併市町村で指定したものを引き継いでいるため、内容としてはばらつきがある。 <p>(5) 令和5年度調査の概要について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局より説明(資料8)
9 会議資料	別添のとおり